

CONTENTS

▼メッセージ

- ・ 会員の皆様、CNCPのHPからも発信を！

： 田中努

▼コラム

- ・ わかり易い土木第37回「日本の河川災害対策6」
- ： 大友正晴

▼フレンズコーナー

- ・ 現場から発信する、市民の心に届かせる贈り物

： 岩橋公男

▼事務局通信

シビルNPO連携プラットフォーム／since2014

CNCP通信

VOL.110／2023.6.5

■今月の土木■



【上】現場見学会（地元小学生と現場での記念写真）

【左】現場PRルーム（展示室）

■「土木」の魅力を伝えようー現場からの“贈り物”ー近年、こういう取組が盛んになってきています。大変喜ばしいところではありますが、現状が土木に魅力を感じていないということの裏返しでもあると考えると、残念であり、早急に改善したいと強く思います。全国各所で行われている取組が花開き、全国民が土木への良き理解者である国に早くなって欲しいと願います。その魅力の伝え方ですが、近年は色々な工夫がなされていてとても勉強になることが多いと感じています。弊社の現場で、長年私が取り組んできた活動について、報告させていただきます。

（佐藤工業株式会社：岩橋公男）

<https://www.satokogyo.co.jp/csr/social.html>

▼フレンズコーナーに続く。



●今月のフレンズは、CNCPの賛助会員です。

▼メッセージ

会員の皆様、CNCPのHPからも発信を！

シビルNPO連携プラットフォーム 常務理事/事務局長
土木学会/シビルNPO推進小委員会 副委員長
メトロ設計(株) 取締役

田中 努



■事務局の報告から、皆さんの活動紹介へ

先月、CNCPのホームページがリニューアルしましたが、ご覧になりましたか？

新しいホームページは、「土木と市民社会をつなぐフォーラム」との共同運営で進めていきます。新しいコンテンツは下表の通りで、会員・非会員を問わず、「土木」で頑張る人たちとその活動を紹介します。また、子供を含む「市民」に、土木を知って貰いたく、様々な「土木のはなし」を紹介します。

会員の皆様自身やお仲間の活動・「土木」の情報を紹介してください。CNCP通信の発行と共用ですので、裏表紙の事務局までご連絡ください。サイト運営への応援参加も、是非、お願いいたします。

●一般公開ページ【会員・非会員とも、CNCPの目的に合った取組・活動を紹介】

コンテンツ名		内容
土木に関わる人と活動	みんなの横顔	<ul style="list-style-type: none"> 土木で頑張っている人たち（特に若者）とその活動を紹介。 市民に土木に興味を持って貰いたい。
	つなぐ活動	<ul style="list-style-type: none"> 「土木と市民社会をつなぐ」活動をしている人たちとその活動を紹介。 つなぐ活動をしている人たち同志も、連携・協働が出来るようにつなぎたい。
	社会課題への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 土木に関わる社会課題に取り組んでいる人たちとその活動を紹介。 その活動への新たな参加や、志を同じくする仲間との連携・協働が出来るようにしたい。
	イベント・セミナー	<ul style="list-style-type: none"> 上記のような活動のイベントやセミナーなど（事前・事後とも）を紹介。
土木のはなし	分かりやすい土木	<ul style="list-style-type: none"> 土木関連の用語をわかりやすく解説。
	子どもが知りたい土木の世界を発見！	<ul style="list-style-type: none"> 子供とその親に、土木に興味を持って貰いたい。
	土木Q&A	<ul style="list-style-type: none"> 子供を含む一般市民からの質問に、土木の専門家やCNCP関係者から回答。
	これも土木	<ul style="list-style-type: none"> 「箱ものづくり」でない、土木を紹介。
CNCP通信	配信済みのCNCP通信（古い号は検索システムを構築した後に掲載）	

●CNCP会員専用ページ（会員用ID&PWが必要）

コンテンツ名		内容
事業関連資料	プラットフォーム事業	<ul style="list-style-type: none"> CNCPプロジェクトの非公開情報
	会員支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 会員支援メニューや資金調達などの勉強した情報
	ひろげる・つなぐ事業	<ul style="list-style-type: none"> ひろげる・つなぐ活動の非公開情報
仲間からの案内	イベント・会誌・活動の案内等	<ul style="list-style-type: none"> 会員から会員向けの限定情報・非公開情報

▼コラム

わかり易い土木 第37回 河川の話
日本の河川災害対策（6）防災訓練

アジア航測株式会社 事業推進本部
社会インフラマネジメント事業部
大友 正晴



今回は「防災訓練」についてお話しします。私自身は、防災訓練については今まで他人事のように感じていて、あまり真面目に取り組んでこなかったような気がします。しかし最近のマスコミの報道などで、被災の状況がたびたび報道されることにより、災害の発生がより身近に感じられてきました。常日頃から災害発生時に自身がどのような行動を取ったらいいか、シミュレーションを行っていくことは非常に重要なことです。実際にこんなことがありました。ある官庁の一事務所で災害時の非常参集訓練を行いました。その参集訓練は、災害発生時に職員がどのように行動したかをモニタリングするなど、個々の行動に着目した訓練でした。その時はたまたま訓練の1週間後に地震が発生したと聞いています。職員の方々は訓練直後のことでもあり、素早く適切な行動がとれたことを聞きました。このことから私自身も災害発生時の行動をシミュレーションし、常日頃から訓練を行うことで、非常のときに備えていきたいと思えます。

前置きが長くなりましたが、防災訓練に対して皆様の自覚をもって頂けることが自分自身を助けるための第一歩だと思います。

9月1日が防災の日ということは誰もがご存じのことと思います。この日は、ちょうど100年前の1923年9月1日の関東大震災が発生したことにちなんで制定されました。また、9月1日は、立春から数えて210日目にあたります。私は小学生の頃に教わったのは、この210日（にひゃくとおか）、220日（にひゃくはつか）頃は台風がよく襲来する頃でもあると昔から言われてきました。昭和35年（1960年）当時の内閣は、災害への備えを怠らないように9月1日を「防災の日」と制定したそうです。その後、9月1日には全国で防災訓練を行なう日となっています。以下にその内容を紹介します。

●訓練とは

辞書によると、「習熟させるため、実際にそのことをさせて鍛えること」となっている。あることを教えて、継続的に練習することで体得することで、能力・技能を体得させるための組織的な教育活動をさすこともあります。

国の行政機関、地方公共団体、その他の公共機関等の防災関係機関の災害への対応に関しては、災害対策基本法、防災基本計画等に基づく防災訓練を行うことが定められています。防災訓練実施における訓練の企画、基本方針、国の訓練次項、地方公共団体の訓練への留意点等を示した総合防災訓練大綱を毎年の中央防災会議にて決定されます。

◆防災訓練と避難訓練

防災訓練は、災害などに備えた訓練全般をさしますが、同じような言葉で避難訓練があります。文字通り避難行動に関する訓練ですが、災害に限らず、戦争や犯罪などに対する非難行動も含まれます。

■ 総合防災訓練

毎年9月1日防災の日には、総合防災訓練大綱に基づく「総合防災訓練」が行われています。令和4年度の総合防災訓練では、東日本大震災、大雨、潮位変化等の既往災害や新型コロナウイルス感染症拡大防止対応など等を踏まえた訓練が行われました。この年の総合防災訓練大綱に次の内容が記載されていました。

1. 総合防災訓練の目的

防災訓練は、防災関係機関の災害時の応急対策に関する検証・確認と住民の防災意識の高揚を目的としています。具体的には次の5つのことが行われます。

- (1) 防災訓練を通じて、防災関係機関の平時からの組織体制の機能確認、評価等の実施と実効性検証
- (2) 防災訓練を通じて、雑賀時における各防災関係機関の適切な役割分担と相互に連携協力した実効性ある対応方法の確認。特に国と地方公共団体の関係強化、平時からの相互の連携強化を図る

- (3) 防災訓練の実施で、防災計画等の脆弱点や課題の発見、防災計画等の継続的な改善を図る
- (4) 住民一人一人が、「自らの命は自らが守る」という意識を持ち、自らの判断で避難行動等をとれる社会の構築、防災訓練に際して日常及び災害時において「自らが何をすべきか」を考え、災害に対して十分な準備ができるように、住民の防災に関する意識高揚と知識の向上を図る
- (5) 行政機関、民間企業を通じた防災担当者の平時からの自己研鑽・自己啓発等が社会の災害対応力向上に直結することを鑑み、各防災担当者が日常の取組について検証・評価するきっかけとする

2. 総合防災訓練の実施概要（防災の日関連）

（1）政府関係の総合防災訓練

●政府本部運営訓練

内閣総理大臣を始めとする全閣僚や関係省庁及び関係地方公共団体等と連携して、情報収集、対応・対策判断等を行うべく本部の運営訓練の実施。

●閣僚、省庁職員の非常参集訓練

全閣僚の徒歩等による参集、関係省庁の職員の安否確認及び非常参集訓練の実施。

●被災地への現地調査訓練

被災地（この年は千葉市）に対して現地状況の調査団を派遣、調査等の訓練を実施。

（2）地域ブロック広域訓練

首都圏では、九都県市合同防災訓練を実施している。首都直下地震を想定し、首都圏ブロックにおける関係府省庁、関係省庁支分部局、関係地方公共団体、その他公共機関、ライフライン・インフラ事業者、マスコミから構成される協議会等が主体に広域的な実動・図上訓練を実施している。

3. 地方公共団体等における防災訓練等

災害時に最も住民に近く対応を行わなければならないのは地方公共団体です。その役割は重要かつ広範囲にわたります。そのため地方公共団体の防災訓練の重要性は高く重いものと言えます。

とくに、地域住民が防災を考え、具体的な行動を取れるよう災害リスク情報や災害時にとるべき避難行動等自助の周知徹底に努める必要があります。

また、地域の防災力の強化、知久防災計画に基づく訓練等、自主防災組織による防災訓練の実施、防災拠点管理者や地域の事業所と地域住民との連携による防災訓練など共助の醸成が必要となります。

地方においては以下の項目も必要となります。

- ・NPO・ボランティア等との連携：災害時には彼らとの連携は必要で、関係機関との連携、受け入れ訓練及び環境整備等が必要です。また、避難所の運営訓練等も必要とされています。
- ・避難指示等の発令・伝達：災害時の避難指示等の発令に関しては、災害発生の際に問題とされていますが、発令の意思決定・伝達をし、住民が適切に避難行動をとれるよう訓練することが示されています。これには、住民の十分な理解と、住民への的確な情報伝達が必要と考えられます。



2019年豊川・矢作川連合総合水防演習、広域連携防災訓練
(国土交通省 HP より)

- 要配慮者の避難支援訓練：前述と併せとくに要支援者に対する避難誘導、避難所開設・運営等の訓練も実施すべきとされています。

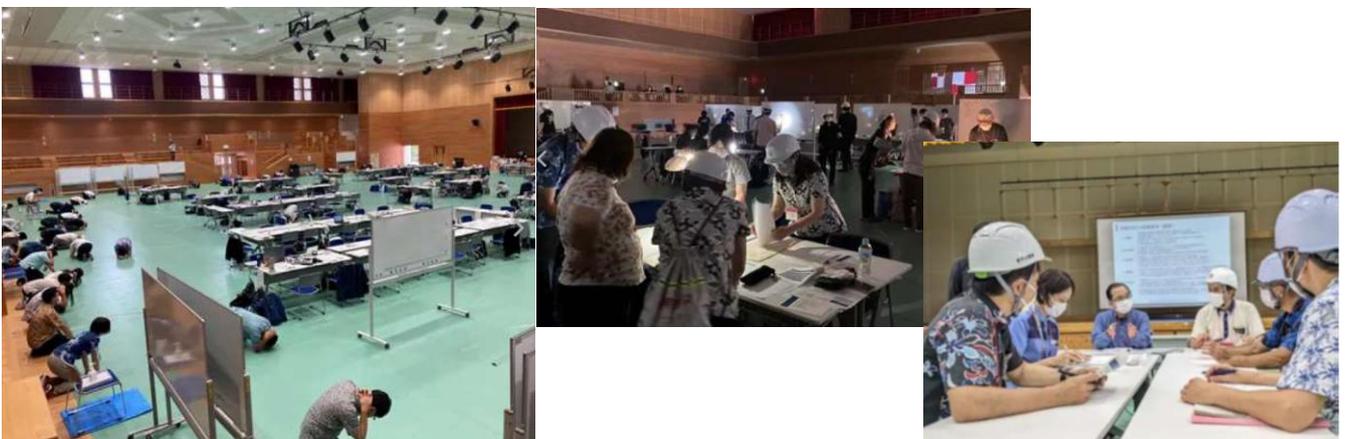


2019年豊川・矢作川連合総合水防演習、広域連携防災訓練
(国土交通省HPより)

紙幅がなく訓練のすべてを紹介できませんが、自分の命は自分で守る観点からも、防災訓練の重要性をご理解いただきたいと思います。これをもって水害に関しての最後の結びとさせていただきます。

◆沖縄県の防災訓練（観光機器管理体制運用図上訓練）

沖縄は皆さんご存知の通り観光事業は重要な産業となっております。そこで、災害時の観光客への対応、観光事業者の対応、自治体の対応などに関して訓練を行ってきました。令和4年11月にも実施されました。この訓練は県と（一財）沖縄観光コンベンションビューローが主体でコンサルタント等の協力を得て、ロールプレイングによる図上訓練を行っています。33の団体と112名の参加者で、初動対応・連携と観光客等の帰宅困難者の支援・復興について演習しています。



（一財）沖縄観光コンベンションビューローHPより

▼フレンズコーナー

現場から発信する、市民の心に届かせる
贈り物佐藤工業株式会社 土木事業本部
副本部長

岩橋 公男



“贈り物”は、贈る側の気持ちがどれだけ込められるかは、とても大切ですが、その気持ちが、贈られる側の心にどれだけ伝わるのかは、気持ちを込めれば良い、ということとは別の話ではないでしょうか。

贈られる側のニーズに合っているかどうかで、贈り物の価値は、決まるということだと思います。

私が、「土木の広報」で心がけてきた原点には、この贈り物の話があります。

例えば、現場見学会。現場の凄さや苦勞を伝えようとする時にどのように伝えるか。一般の人が判る物差し（ビルなら何階？とか、繋げたらどこからどこまで行ける長さ？など）で表現したり、暮らしの中で実感できるような説明や、どんなことを知りたいのかを探ったりすることなどを心がけていました。

そして、活動の行く先には、広く一般の方がインフラへの理解を深めて、この国の暮らしが未来永劫「安全・安心・快適」であり続けることを願っています。

■1 | 現場見学会&出前授業

私が最後に担当した現場では、現場見学会は、6年間で436回開催しました。

見学会のポリシーは、
「①1人からでも受け付ける。②現場の工程は変えない。（ありのままを見せる）③常に安全通路がある状態を保つ。④常に整理整頓が行き届いている状態を保つ。⑤出会ったら必ず挨拶をする。⑥万が一に備えて保険をかける。」



地下鉄工事 現場見学会 大学生・協力会社社員



として、きれいで、わかりやすく、安全な見学を心がけていました。（現場の効果として、整理整頓・安全通路・見える判る表示が常にできていました。）

小学校の見学会では、事前に授業時間をお借りして、学校に出向き、土木の話、“仕事とは”の話をし、現場のことは、難しい話はせず、見学の時のポイントだけを話して、見学会への興味を膨らませる様にしてきました。



見学会終了後も、感想

出前授業風景

や質問等を生徒とやりとりさせてもらい交流を深め、ある小学校では、卒業式に来賓として出席もさせてもらい、涙させて頂いたこともあります。

また、見学会とは別に「土木」「仕事とは」のことでの出前授業も行い、教師たちからも「学校では、なかなか教えられること」と感謝をして頂きました。

地元の方の見学会を積極的に開催し、反対してきた人達からは、「こんなに凄いことをしていたのか。」

「これでは、うるさくても仕方が無いか。」とか「これができたらこの町の誇りだ。」とかの声を頂きました。現場は、とにかく閉ざしたくなりますが、悪いことをしている訳ではないので、見せることも大切だと思います。(特に懸命に作業されている方々の姿を見て頂く。)

■2 | 仮囲いを利用した展覧会

現場の仮囲いは、近年はアドフラットが主流になり、それを利用した PR 等をよく見かけるようになりました。郷土の PR や、デザインペイント、地元の子の絵等さまざまですが、工事中ずっと変わらなかったり、何を伝えたいのかが、判らなかったりということも多い様に感じてしまいます。

私は、地元とのふれあいとして活用するようにしてきました。

小学校、幼稚園等に出向いて子ども達の絵や粘土細工等をデジタルカメラで撮影し、A3×4枚に分割拡大印刷し、それをラミネート加工(安価、現場でできる)して仮囲いに掲出しました。



[仮囲いへの児童作品展示](#)

そして、2ヶ月に一回張り替えます。そうすることで、多くの子ども達の作品を飾ることができます。選ばれた子だけでなく全員の子の作品が飾れ、「次は僕の番だよ」との声や、作品の前でご家族での記念写真撮影も多く見受けられます。また、近隣の方からは、「次はどんな作品か楽しみ」との声もあります。デジカメでの撮影なので、絵だけでなく立体の作品も掲示できるメリットもあります。

一度きりの絵をペイントしたりするのは、こちら側の「やりました」という自己満足ではないかと思うのです。張り替える方法は、喜ばれる活用としてはとても良いと思っています。(現場職員は、大変な面もありますが)

■3 | 現場PR展示室

近隣住民の皆様から大反対されていた現場で、工事への理解をして頂くことを目的とした展示室をつくりました。25m²程度の小さな部屋ですが、数々の工夫を凝らし、近隣のみならず遠方からも訪ねて来られるような施設となりました。

コンセプトは、「①気軽に出入りできる。②できるだけお金をかけない。(反対している人への配慮、手作り感の創出) ③リピーター獲得(展示内容の随時更新)」



[展示室内部の様子](#)

として、近隣、発注者、各団体、マニア等からの高評価を頂き、来場者何万人イベントを開いたりもしました。

展示内容は、現場の完成模型、機械の模型、現場の説明、建設車両のミニカー、各種現場のビデオ(発注者、当社、他社等からの提供)、現場内の進捗状況写真(路上からでは見る事ができない世界)、子どもが遊べるスペース(建設系のおもちゃ等)、お絵かき用ホワイトボード(くずが出ないペン使用)、書籍や絵本(建設関係、現場に合わせた物)、などで、状況写真は一月おきには交換し、書籍、絵本、おもちゃ等は、随時追加をしていきました。それを楽しみに来られる



[2万人イベント](#)

リピーターも多く、SNSにより口込みで広まっていき、来場者が増えていきました。また、地元見学会と合わせて、近隣からも評価され、多くの方が、反対から協力へと変化していきました。

全国の現場で、現場からの“贈り物”が多くの方に届けられることを祈念いたします。

CNCPは、
あなたが参加し、
楽しく議論し、
活動する場です！

お問い合わせは下記まで

特定非営利活動法人
シビルNPO
連携プラット
フォーム

- 登録事務所
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
3丁目13番地7
名古屋ビル本館2階
コム・ブレイン内
- 連絡事務所
〒110-0004
東京都台東区下谷
1丁目11番15号
ソレイユ入谷9F

事務局長 田中努：
cncp.office@gmail.com
ホームページ URL：
<https://npo-cncp.org/>

▼事務局通信

■5月の実績

●第109回経営会議

開催日・場所：5月9日（火）Zoom会議
議題：京都地域創造基金の活動（専務理事から）/
CNCPの新たな運営方針／各事業の進捗よくと予定

■6月の予定

●第110回経営会議

開催日・場所：6月16日（金）Zoom会議
議題：総会の会場とプログラム／CNCPホームページ
の新たな運営方針／各事業の進捗よくと予定

■現在の会員と仲間の数

- 会員：賛助会員30／法人正会員11／個人正会員25
／合計66
- 仲間：サポーター109／フレンズ111／土木と市民
社会をつなぐフォーラム15／インフラパートナー18
／合計253

●CNCPの活動には下記の賛助会員の皆さまのご支援をいただ
いています（50音順・株式会社等省略）。

アイ・エス・エス／アイセイ／安藤・間／エイト日本技術開発
／エヌシーイー／奥村組／オリエンタルコンサルタンツ／ガイ
アート／熊谷組／建設技術研究所／五洋建設／佐藤工業／シン
ワ技研コンサルタント／スバル興業／セリオス／第一復建／竹
中土木／鉄建建設／東亜建設工業／東急建設／ドーコン／飛島
建設／土木学会／西松建設／日本工営／パシフィックコンサル
タンツ／フジタ／復建エンジニアリング／復建調査設計／前田
建設工業（以上30社）



土木と市民社会を
つなぐフォーラム



インフラパートナー
JSCE 土木学会